

就任ご挨拶



日本板硝子株式会社 代表取締役

藤本 勝司

このたび(社)ニューガラスフォーラムの平成 18, 19 年度の会長の任を仰せつかりました日本板硝子株式会社の藤本です。

前任である石津会長はじめ、諸先輩がこれまで築き上げられてきた功績を前にして、身の引き締まる思いではありますが、関係各位のご協力を得て、この大任を果たしたいと考えております。

さて、昨年は、原油価格の高騰をはじめとするコストアップ要因はあったものの、企業の収益改善や民間設備投資の拡大、輸出の増加により、国内景気はゆるやかな拡大基調を維持してきました。また、世界経済も、米国ではハリケーン被害等のマイナス要素はありましたが、住宅や設備投資等の内需が堅調で好況を維持したほか、BRICs 諸国を中心に景気拡大が続くなど、概ね好調に推移したと言われております。

ただ、そうは言いながらも、実態は、全ての地域と産業分野において、おしなべて底堅いわけではなく、当然、明暗があるのは、皆さんがご理解されている通りです。「勝ち組と負け組」が、厳然と存在していると言ってもいいでしょう。

また、当ニューガラスフォーラムが開拓を目指している産業分野、すなわち、オプトエレクトロニクス、ディスプレイ、ストレージ、バイオ、環境、新エネルギーといった産業分野はというと、昨今我が国の将来を担う産業として非常に注目を集めています。

その中であって、我々が取組んでいるニューガラス材料開発とその加工技術の開発は、「強み」の持てる中核技術の開発であることは間違いありません。

そして、このような真に強い技術に裏打ちされたものだけが、厳しい競争社会で生き残っていくことというのは、我が国の自動車産業や FPD 産業をみても明らかです。

当フォーラムにおいても、昨年まで取組んで参りました「ナノガラス技術プロジェクト」や、「フォーカス 21 ナノガラスプロジェクト」の成果が、次々に新規製品化に結びつき、(世界のガラステクノロジーを席卷し、) 我が国産業の一層の隆盛に寄与していくことを期

待してやみません。

そして、昨年よりスタートしております「新溶解プロジェクト」や「構造データベースプロジェクト」では、私が入社以来、フロート板ガラスやTFT基板ガラスの製造・開発分野で積上げてきた現場での経験が、少しでも活かされれば、こんなに嬉しいことは無いと考えています。

さらに当フォーラムでは、本年度より、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)でスタートする新しいプロジェクト「三次元光デバイス高効率製造技術」を受託して、これに挑戦して参ります。

また、講演会・シンポジウム開催等の基盤事業や、ガラス・データベース「インターグラッド (INTERGLAD)」の運営、ガラスの高温物性評価の標準化の推進等により、今後のニューガラスフォーラムの活動を、広くグローバルに、力強く、展開していく所存であります。

当フォーラムは昨年で創立20周年を迎え、新たな出発ではありますが、産・官・学が一体となって、使命を果たしていきたいと考えております。当フォーラムの会員各位、経済産業省の関係の皆様、そして大学・研究機関の先生方におかれましては、何卒格別のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

以上、簡単ではございますが、会長就任のご挨拶とさせていただきます。